

佳作

## ぼくの妹

鹿児島県 霧島市立国分南小学校二年 有島慶

「けい、けい。」

と、大きな声で妹が、ぼくをさがします。妹は、さいきんだいぶ話ができるようになりました。

ぼくが、おもちゃであそんでいると、

「かして、かして。」

とおもちゃをどろうとじてきます。

「いやだ。だめ。」

と言うとなきます。そしてぼくはこまるので、おかあさんにたすけてもらいにいきます。ぼくがベッドでごろごろしていると、朝でもよるでも、

「おきよ。」

となんどもなんとも言ってくる。妹は、小さな体ですべるように足からベッドをおりて、小ばしりでもリビングに行きます。ぼくは、そんな妹がかわいくて、わざとおいかけていくと、おこってたたいたり、おもちゃのとりあいであたりされることもありま

す。いろいろけんかもするけれど、「妹がいてよかったな」と思います。

妹とのさいきんの思い出は、ゴールデンウィークにカドリー・ドミニオンに行ったことです。ゴリラを見たり、カピバラをさわったり、こいとハムスターにもえさをあげたりしました。そこでは、ぼくはうまにのりました。妹ももののかなと思っただけ、妹はうまをこわがってのりませんでした。つぎに行ったときは、妹もいっしょにのれるといいなと思います。

ぼくの妹は、ぼくが年中のときに、おかあさんのおなかにやってきました。おかあさんから、

「赤ちゃんがいるよ。」

と聞いたとき、お兄ちゃんになって、いっしょにあそべるからうれしいなと思いました。赤ちゃんをうむときに、おかあさんが入っていたときは、さみしかったです。まい日テレビでん話をしました。きつと、おかあさんもぼくみたいにさみしかったのかな。さみしかったけど、早く赤ちゃんにも会いたいなと思いました。とてもさむい日に、おかあさんがたいいんしました。はじめて赤ちゃんに会ったときは、小さくてかわいいな、ぼくは今日からお兄ちゃんだなどわくわくしました。生まれたばかりの妹

は、よくねていたり、大きな目できよろきよろしたりしていました。ぼくが思ったよりもずっと小さくて、かわいかったです。ほっぺもぶにぶにしています。今でも、ついつい妹のほっぺをさわってしまいます。妹は、いやがるときもあるけれど、さわらせてくれます。かわいい妹は、大へんなときもあるけれど、ぼくのたからものです。

これからも、妹とおにごっこをしたり、バレーをしたりしたいです。今はいっしょにできないことも、たくさんしたいです。

「ゆりな、これからもいっばいあそぼうね。」